

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	132生きる力を育てる義務教育の充実		
施策のねらい(めざす姿)	良好な学習環境の中で、児童・生徒がたくましく生きる力を身につけています。		
基本目標	1「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして	施策担当マネージャー	生涯学習部次長
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	マネージャー氏名	狩谷 昭夫

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	特別な支援が必要な児童生徒の増加に対応するため、専門職員の配置等強化を図るとともに、いじめ防止を推進するため、「いじめ防止基本方針」を策定する。また、良好な学習環境の実現を図るため、小中学校のトイレ改修を計画的に順次実施する。	③改革・改善内容	引き続き特別な支援が必要な児童生徒の対応をするため、専門職員の配置を継続する。また、良好な学習環境の実現を図るため、小中学校のトイレ改修を国の財源を有効に活用しながら計画的に順次実施するとともに、老朽化が進んでいる楽器の更新を行っていく。
②①に基づく取り組み結果	特別な支援が必要な児童生徒への対応のため専門職員の配置、心理発達相談員の巡回相談を実施するとともに、「いじめ防止基本方針」を予定どおり策定した。また、児童増加に伴う五本松小学校への普通教室、特別教室の整備や学習環境の向上のため、小学校のトイレ改修を実施した。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	市内小中学校の児童生徒及び教職員並びに学校施設	意図(対象をどうするのか)	安全安心で良好な学習環境の中で、教職員が新たな学習課題に応じた高い専門性を身につけるとともに、幅広い視野と社会性を兼ね備えて指導にあたり、児童生徒がたくましく生きる力を身につける。
②施策の概要	学校施設の改修や、少人数教育、特別支援教育、情報教育などを推進し、児童生徒の良好な学習環境の実現を目指す。また、研修会や学力調査の実施などにより、専門性と指導力を備えた教職員の育成を図る。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	特別な支援が必要な児童生徒への対応は多様化しており、個々のニーズに応じたきめ細やかな支援体制づくりが求められている。また、トイレ改修など施設の計画的な改修とともに、学校や保護者からの要望がある老朽化した楽器の更新も引き続き進めていく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29～30年度の施策の成果	少人数教育指導教員、特別支援教育推進指導教員、図書館司書を全ての小中学校に継続して配置した。また、トイレ改修等、施設の改修については、計画どおり実施し学習環境の向上を図った。							
②施策成果指標	指標名称			単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	目標値(2年度)
	i	少人数指導教員配置数	人	14	14	14	14	
	ii	特別支援教育推進指導教員配置数	人	17	17	17	14	
	iii	不登校児童生徒出現率	%	1.4	1.2	1.5	0.5	
③基本事業成果指標	iv	義務教育施設耐震化率	%	100.0	100.0	100.0	100.0	
	i	特別支援教育推進指導教員配置数	人	17	17	17	14	
	ii	学校支援ボランティア数	人	614	647	656	現状維持	
	iii	教職員研修受講割合	%	100	100	100	100	
	iv	改修済み施設数	%	100	—	100	51	
	v	スクールカウンセラー相談件数	件	1,659	1,692	1,522	減少	
	vi							
	vii							
④施策の事業費	平成29年度決算	平成30年度決算	市民一人あたり事業費(30年度決算)	令和元年度予算				
事業費(千円)	1,182,101	1,398,485	(単位:円)	12,785円	1,686,700			

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	指標のうち、不登校児童生徒出現率については、横ばい状態となっており、この指標の改善に向け相談体制の充実をしてきたが、さらなる対策が必要である。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	一部指標を除き、目標を達成又は達成に向け順調に指標が推移している。

V 今後の方向性

①施策の方向性	→維持
②上記方向性の説明	施設の改修については引き続き計画的に実施するとともに、不登校児童生徒への対応、いじめ防止に力を注ぐ必要があるため。
③特に重点化する事務事業	教育指導に要する経費